

武蔵野教育學論集第17号： 目次,執筆要項,編集後記,奥付

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学教育学研究所 公開日: 2024-10-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000416

武蔵野 教育学論集

第 17 号

目次

幼児の歌のリズムと拍子のとらえ方について	高 牧 恵 里	1
シチズンシップと公平性を拓くアート教育プログラム —パリ・ルーブル美術館の実践から—	松 田 こずえ・生 井 亮 司	9
国内における低年齢児保育の歴史と保育の質に関する動向	箕 輪 潤 子・峰 友 紗・今 福 理 博・淀 川 裕 美・堀 科 菅 井 洋 子・猪 熊 弘 子	23
保育所等における保育者の労働環境と保育の質に関する文献レビュー	峰 友 紗・堀 科・猪 熊 弘 子・淀 川 裕 美・菅 井 洋 子 今 福 理 博・箕 輪 潤 子	31
保育者養成課程における身体を動かす授業の実践意義	中 村 悠 希・川 上 暁 子	37
小学校外国語教育におけるカナ振りの有用性について —児童のカナ振りについての認識—	伊 藤 摂 子	51
新教育指針(1946)第三分冊(全四分冊)に関する考察 —現代教育の源流を探る—	上 岡 学	63
いわゆる戦争文学教育に関する問いの再考	勘 米 良 祐 太	79
学校法人武蔵野大学創立100周年記念碑の建立について	廣 瀬 裕 之	89

ISSN 2432-7735

THE BULLETIN OF MUSASHINO UNIVERSITY

Faculty of Education

No. 17

CONTENTS

How Young Children Understand the Rhythm and Beat of Songs	TAKAMAKI Eri	1
The Study on Art Education Programs that Foster Awareness of Citizenship and Equity: From the Practices of the Louvre Museum in Paris	MATSUDA Kozue / NAMAI Ryoji	9
The Review of the History and Assessment of the Quality of Childcare for Children Under Age 3 in Japan MINOWA Junko / MINE Tomosa / IMAFUKU Masahiro / YODOGAWA Yumi / HORI Shina SUGAI Yoko / INOKUMA Hiroko		23
Literature Review on the Working Environment and Quality of Childcare MINE Tomosa / HORI Shina / INOKUMA Hiroko / YODOGAWA Yumi / SUGAI Yoko IMAFUKU Masahiro / MINOWA Junko		31
The Purpose of Having a Physical Education Class at Nursery Teacher Training Course	NAKAMURA Yuki / KAWAKAMI Akiko	37
Influence of Using Pronunciation Guide in Elementary English Education: Children's Perception about Japanese Kana Use	ITO Setsuko	51
Guidelines of Japanese New Education (1946) Vol.3 of 4	UEOKA Manabu	63
Rethinking Questions about so-called War Literature Education	KAMMERA Yuta	79
Regarding the Erection of the 100th Anniversary Monument of Musashino University ...	HIROSE Hiroyuki	89

MUSASHINO UNIVERSITY Institute of Education

The academic year of 2024 (October, 2024)

武蔵野教育學論集執筆要項

2013年10月10日制定
2016年7月14日改正
2019年7月11日改正
2021年9月1日改正
2023年2月7日改正

1 内容

- (1) 教育及び教職研究に関する学術論文
- (2) 教育学部所属教員の専門に関する学術論文
- (3) その他、編集委員会が認めたもの

2 投稿資格

学術論文または制作ノートに投稿できる者は、以下の者とする。

- (1) 教育学研究所研究員及び客員研究員
- (2) 教育学部専任教員
- (3) 共同研究の場合は(1)(2)が連名であれば、編集委員会での審議の上、他所属の研究者の執筆も可
- (4) 教育学研究所から依頼した者
- (5) その他、編集委員会が認めた者
- (6) 本学大学院生（ただし、院生単独は不可。指導教員との連名とする。）

3 倫理規定

執筆に際しては他人の著作権の侵害、名誉毀損、データの捏造、人権の侵害等の問題を生じないように十分に配慮しなければならない。倫理的な配慮が必要とされる学術論文等については、投稿者が所属する機関等の「倫理審査委員会」で承認を得たものに限り、学術論文等の中において、その旨を明記しなければならない。なお、万一掲載された執筆内容が他者の著作権を侵害したと認められた場合、投稿者がその一切の責任を負うものとする。

4 公開

印刷冊子、および、武蔵野大学のホームページ上等で電子データとして公開する。

5 投稿方法

- (1) 投稿を希望する者は、指定された期日までに所定の「武蔵野教育學論集投稿申込書」を提出しなければならない。
- (2) 原稿は、指定された期日までに所定の書式で作成した完成原稿（紙面に打ち出したもの）とそのデータを提出しなければならない。
- (3) 写真や図表は鮮明なものを使用し、完成原稿中にその位置を明示すること

6 投稿規定

A 学術論文

- (1) 原稿は未発表のものに限る。

- (2) 原稿は、第1著者論文は単著・共著にかかわらず1人1編に限る。
- (3) 但し、次の場合は、最大2編投稿することができる。
 - ①単著1本+共著(第2著者以下)1本
 - ②共著(第1著書)1本+共著(第2著者以下)1本
 - ③共著(第2著者以下)2本
- (4) 原稿は、横書き及び縦書き両方可とし、題目に英訳を併記すること。
- (5) 同号の制作ノートを投稿した者は、原則として、学術論文を投稿することはできない。
- (6) 字数等
 - ①頁数・字数
10ページ程度(注、図表、写真、その他、を含む)を原則とする。
*横書きの書式は、1ページ43字×38行とする。
*縦書きの書式は、1ページ30字×25行の2段組とする。
*図表、写真は適宜文字数に換算する。
*図表、写真などが多いため他の原稿と比べて著しく費用がかかる場合、編集委員会は執筆者に負担を求めることが出来る。
 - ②用語及び文体等
現代仮名遣いを原則とする。外国語を仮名書きにする場合は、カタカナとする。
 - ③書式
別表の書式例参照のこと。
- (7) 校正
原稿は完成原稿を提出するものとし、校正段階では最小限の字句の訂正にとどめるものとする。校正は原則として執筆者が行い、校正済みの原稿は、編集委員会が指定した期日までに必ず返却しなければならない。

B 制作ノート

- (1) 研究作品写真を用いた制作ノートを投稿することができる。
- (2) 研究作品は、原則として、その年度内に制作(展覧会等での発表を含む)したものとする。
- (3) 同号の学術論文を投稿した者は、原則として、制作ノートを投稿することはできない。
- (4) 研究作品の題名・制作年などを記し、鮮明な画像(写真又はデータ)を提出するものとする。
- (5) 頁数等
 - ①頁数
4ページ以内【研究作品掲載(カラー)1ページ、及びその解説等3ページ以内(白黒)】とする。
 - ②その他
*学術論文に準ずる。
- (6) 校正
*学術論文(7)に準ずる。

7 掲載の採否・順序等

- (1) 掲載の採否は、査読を経て、編集委員会が決定する。

- (2) 編集委員会は、原稿の書き直しを求めることが出来る。
- (3) 掲載順序などの編集は編集委員会が行う。
- (4) 執筆者には、紀要 5 部、別刷 20 部を無償で配布する。共同研究の場合も各執筆者に別刷 20 部ずつを無償で配布することを原則とする。それ以上の部数を希望する場合は、必要部数をあらかじめ編集委員会に申し込まなければならない。その場合、超過部数に関わる費用は執筆者の負担とする。

8 その他

その他の事項については、編集委員会で決定する。

本要項は、「武蔵野教育学論集」第 15 号の執筆・編集から施行する。

*編集後記

2024年（令和6）、学校法人武蔵野大学は、ついに記念すべき創立100周年の年を迎えた。10のプロジェクト委員会が設けられ、それぞれこの記念イベントが計画されたが、武蔵野・有明キャンパス及び築地本願寺で実行・実施されている。本年4月、教職員と今年度入学した全学部学科の1年生全員が本学発祥の地・築地本願寺へ行き参拝。5月、同慶節は武蔵野キャンパスにて学長によるFD開催とともに開催。6月、築地本願寺にて親鸞を題材とした創作能の公演。7月、100周年記念碑の除幕式の開催と進行中である。

本年夏は、猛暑の中、パリ2024オリンピック開催の年でもあった。フランスでの開催なので選手たちは選手村の食や住環境に大いに期待していたのだが、東京2020大会（1年遅れ2021年に開催）に比べて期待外れというコメントや記事が満ち、とても残念に思った。パリというとセヌ川が有名だが、大阪の道頓堀川の水質よりかなりよごれているという。何とかならないものか。

（編集委員 廣瀬・峰・高牧）

武蔵野教育学論集 第17号

2024年10月10日発行

編集 武蔵野教育学論集編集委員会

発行 武蔵野大学教育学研究所

〒202-8585

東京都西東京市新町1-1-20

電話 042-468-3290

印刷 株式会社 創文

〒135-0016

東京都江東区東陽4-11-38 JMFビル東陽町01

電話 03-6634-2573

【武蔵野大学教育学部における紀要発行の歴史】

通号	名 称	発行年月日	発 行
1	教育研究所紀要 第1巻第1号	2012・3・1	教育研究所
2	教職研究センター紀要 第1巻第1号	2013・3・1	教職研究センター
3	第2号	2014・3・1	教職研究センター
4	第3号	2015・3・1	教職研究センター
5	第4号	2016・3・1	教職研究センター
6	武蔵野教育学論集 創刊号	2017・3・1	* 教職研究センター
7	第2号	2017・8・15	教育学研究所
8	第3号	2017・9・1	教育学研究所
9	第4号	2018・3・1	教育学研究所
10	第5号	2018・9・30	教育学研究所
11	第6号	2019・3・1	教育学研究所
12	第7号	2019・10・1	教育学研究所
13	第8号	2020・3・1	教育学研究所
14	第9号	2020・10・10	教育学研究所
15	第10号	2021・3・10	教育学研究所
16	第11号	2021・10・10	教育学研究所
17	第12号	2022・3・10	教育学研究所
18	第13号	2022・10・10	教育学研究所
19	第14号	2023・3・10	教育学研究所
20	第15号	2023・10・10	教育学研究所
21	第16号	2024・3・10	教育学研究所
22	第17号	2024・10・10	教育学研究所

*2017・4・1より教育学研究所設立により紀要名を先行して改称